

女性の意見を聴いて一般缶のあるべき姿を描く日本初のプロジェクト 「ほわっと・カンカンコミュニティ」グループインタビューin大阪 9月10日(木)14:00～開催

全日本一般缶工業団体連合会(事務局:東京都台東区、会長:定村 光、03-5817-7388)は、一般消費者、とくに一般缶商品を購入する立場にある女性とのコミュニケーション活動を展開するため、「ほわっと・カンカンコミュニティ」(※)を2014年9月17日に発足しました。同参加メンバーから、一般缶に関する理解度、知識、これまでの体験、商品への要望等、今の声を聴取することにより、多様な消費者ニーズを的確に把握します。それにより、一般缶のあるべき姿を当連合会が描き、各メーカーへ働きかけて市場が減りつつある一般缶の需要創出の促進を図ってまいります。

「ほわっと・カンカンコミュニティ」の発足に伴い、「ほわっと・カンカン グループインタビュー」を企画、2014年には東京で第1回目を開催しました。今回は第2回目として次のとおり開催します。報道関係の皆様のお席もご用意しておりますので、ぜひインタビュー風景をご覧ください。ご希望の方、お問い合わせ等は、広報事務局 (can@demi-pr.com / 03-3798-2172) までご連絡ください。(※)「ほわっと・カンカンコミュニティ」は、『WHAT CAN CAN「ほわっと・カン・キャン」=缶には何が出来る?』とつけて命名しました。

【ほわっと・カンカン グループインタビュー 開催概要】

- 日時:平成27年9月10日(木)14:00～16:00
- 会場:大阪市淀川区宮原4丁目2-1
メルパルク大阪5F「コムナーレ」
(最寄り駅:新大阪駅より徒歩約8分)
- 参加メンバー:一般缶商品を購入した経験があり、多様な価値観を持ち、情報の発進力が比較的高いと思われる30歳代から60歳代の女性12名。

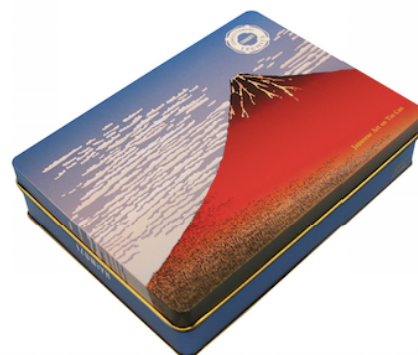
(一般缶について)

鉄が主成分のスチールを素材とした金属容器です。飲料缶、缶詰缶、18リットル缶、ドラム缶を除いた比較的小型な缶で、海苔缶、お茶缶、お菓子缶、薬品缶、ペイント缶、生活雑貨缶など幅広い分野で使用されています。オリジナルな形状やデザイン・金属印刷を施すことができ、その独創性で商品価値を高め、かつ、内容物の遮光性、長期保存性、省エネルギーや美的感覚と機能性を兼ね備えており、リサイクル率92.9%(2013年実績)と環境にも優しいのが特徴です。

この一般缶という容器は、江戸時代末期の文久年間の昔から長く保存容器として日本人の生活に用いられてきました。しかし、贈答用が主の食品缶を中心とした需要が、平成2年をピークに減少の一途をたどっています。その要因の1つに、コスト削減や利便性重視から、紙・プラスチックなど他の素材の容器への移行があります。この効率重視の風潮に対し、従来は商品企画などを行ってこなかった当連合会が初めての試みを行い、2013年に、業界初のオリジナルクッキー缶を企画・販売を開始しました。

(業界初のオリジナルクッキー缶について)

当連合会では、業界初のオリジナルクッキー缶を企画し、広く販売促進することで、一般缶の認知・利用促進に努めています。この商品を企画した理由は、ギフト市場に押し寄せているコスト削減や利便性一辺倒の風潮に対して、日本の技術力を生かして一般缶を製造する業界団体として、古くて新しい付加価値を提案するためです。第1弾「歌麿の美人画」は、2013年10月1日から販売開始し、明治座でのテスト販売も行っています。第2弾「世界遺産の富士山」は、2014年4月1日から販売し、この度完売しました。第3弾はほわっと・カンカンコミュニティ参加者など、一般女性消費者限定によるデザイン案投票を経て「赤富士」に決まり、2015年4月に販売開始しました。中身は株式会社泉屋東京店の協力により、ギフト定番のクッキーが入っています。缶の中には一般缶の優れた特徴やエコロジー性、美しい金属印刷のことなどを分かりやすく説明した「しおり」を入れ、外国人向けに英語表記も加えました。



オリジナル浮世絵クッキー缶第3弾デザイン
「赤富士」



第1弾デザイン
「歌麿の美人画」



第2弾デザイン
「世界遺産の富士山」

【団体概要】

全日本一般缶工業団体連合会
会長 定村 光(寺島製缶工業(株)社長)
設立:1978年6月2日
会員団体:東日本一般缶工業協同組合
西日本一般缶工業協同組合
中部製罐工業協同組合
所属員会社数:75社
住所:〒110-0016
東京都台東区台東1-6-6第一古茂田ビル2F 205号
TEL:03-5817-7388 FAX:03-3831-9350
ホームページ: <http://www.ippancan.or.jp>